

寺藤、松尾7敦盛、青山旭子7大楠公1賛
助出演東京広瀬圭穂▽琵琶劇石重丸1嶺旭蝶、
青山旭子。笛一、立方二。

近県親善錦心流琵琶演奏会
十月二十六日(日)昼大阪府立婦人会館、主催
一水会大阪支部。(次号詳報)

錦心流琵琶演奏会
十一月二十六日(日)昼逗子市立図書館ホール、
主管鉦水会。(次号詳報)

都派琵琶秋の公演
十月三十一日(金)夕五時東京日本橋第一証券
ホール、主催錦穂後援会。(次号詳報)

ラヂオ琵琶放送
九月二十三日(日)午後三時十分NHK・FM。
中谷襄水氏錦心流舟舟慶(全曲三十分)放送。

予 告
○：京都琵琶協会十一月例会 十一月一日(日)
午後二時本部平井会長宅。

○：晴嵐会秋季演奏会 十一月一日(日)正午東
京中野区文化センター。

○：滋賀県安土町浄蔵寺大祭に琵琶献奏 十
一月二、三日、大阪琵琶同好会協賛。

○：赤心流琵琶詩吟演奏会 十一月三日(日)午
前十時静岡市城内婦人会館(午前詩吟、午

後琵琶)。来賓：浜松柿沢寛峰、横須賀石
井桑水、東京若宮旭登、同中谷襄水、同鈴
木流泉、同前田秋声、同望月昭江、京都平
井春嶺、同梅原旭濤、同植村真水、静岡岡
尾鶴城諸氏。会主赤心流鶴翁氏は「湯陽江
(上)」を演奏。

○：琵琶と詩吟詩舞の会 十一月三日(日)午前
十一時西宮市夙川公民館松下ホール、蓮水
会。一水会神戸支部共催。来賓：豊橋田中
新水、名古屋丹野鯉水、大阪富樫旭桂、木
庭旭山、横野旭鳳、同杭東詠水諸氏並に関
西吟界。詩舞の名手。会主三浦蓮水女史は
「日蓮誕生」。「琵琶舞小楠公の母」を演奏。

○：琵琶洲楓会秋の演奏会 十一月六日(日)午
後五時東京日本橋第一証券ホール。二の組
会員(山田、宮下、加藤、真泉、中村、平
井、前田、松崎、川本、荒川、桑名)出演
の外詩吟七題。来賓：木原綾子(時雨曾我)
仲川秀邦(白虎隊)二女史。(有料)

○：筑前びわのしらべ板谷色リサイタル
十一月六日(日)午後六時大阪東区本町四丁目
大阪津村別院(北御堂)津村ホール、主催
山崎旭華会(有料)。板谷女史の小栗栖、
源実朝、風林火山三曲の外山崎旭華以下五
女史の絃及び箏、尺八、立方入り。

○：ラヂオ琵琶放送 十一月十三日(日)午後三
時十分NHK・FM、木原綾子女史「耳な
し芳一」全曲(三十分間)放送。

○：錦心流一水会全国大会 十一月十五日(日)
十時二十時東京銀座ガスホール。本部役
員の外全国各支部代表多数出演。

○：各流派琵琶演奏会 十一月二十四日(振
替休日)正午京都東山松原上ル安井神社金
比羅宮会館、主催京都琵琶協会。会員の外、
来賓：筑前琵琶島田旭紅氏、錦心流杭東詠
水、中野淀水両氏(掛合曲)。

○：山崎旭華女史叙勳祝賀演奏会 十一月二
十九日(日)正午京都鳥丸二條京都商工会議所
ホール、主催日本琵琶楽協会関西支部役員
有志。関西の各流派琵琶名手十六人出演。

あ 爽快な中秋が瞬く間に過ぎて、あ
と二ヶ月で今年も終りを告げ昭和五
十六年と改まる。今更ながら光陰矢
の如しどころか電撃の如し。本紙の
「予告欄」の充実が最も重要なことで前にも
申し上げた通り事前に演奏会などを予告して
琵琶愛好の方々に喜んで貰いたいので毎月五
日頃までに翌月以降の行事を御連絡頂きたく
重ねて御願ひ申し上げます。ラヂオ・テレビの
琵琶放送も録音した時点で放送日時を云って
呉れる筈だからこの事を早い目にお知らせ下
さって翌月号の「予告欄」を賑やかにして欲
しい。本号は時節柄各地催しものの報道が山
積して貴重な御寄稿の大半を載せることが出
来ず御執筆の方々に深くお詫ひ申し上げます。

昭和五十五年十一月一日発行(非売品)
編集者 植村 稟
行所 高槻市津之江北町一ノ二番
電話 〇七二六(七三六)〇五一
569

琵琶
機関紙

京

絃

第三一七号 京 絃 社

我が道を行く六十五年 (七三)

西 郷 天 風

まだ陽は高いので、宿舎の窓から見えた川
を指して行けば、窓からは民家の屋根で見
えなかつた道路の、向う側にある川だつた。
中は十メートルそこそこの洄に澄みきつた流
れて、水浴に最適の川だつた。

四、五十人の兵士達は、さながらプールの
子供達よろしくハンヤギながら楽しんでい
る。国境の山から流れ来て程近い清水は、この炎
天の下にありながら、なんと冷ややかな清
水である。寧明からの途上、汗と砂塵にま
みれた身体を浸すにはもったいないと思われ
る程清らかな水だ。しかも流れがかなり急激
な為か、数十人の兵士が子供達の如く荒れ廻
っているにもかかわらず少しも濁りを見せず
氣付いて見れば足の感触からして川底は小砂
利と砂である。眼を伏せて窺けば足の爪先も
波にゆらゆらとすき透って見えるのだつた。

折柄「天風さん」と叫ぶ四人連があつた。
それは、いづれも台湾人で、公学校の教員な
がらなかなかの琵琶ファンで、中でも陳君は

弾法に対する異常な感覚を持ち、琵琶独得の
押韻、即ち余韻に現われる甚だ微細なメロデ
ーすら聞き分ける天分の持主である点、得難
い友として私は親しんでいる。

聞けば、彼等は明日あたり国境へ向け進軍
するらしいとの事、さすれば現地で、又の逢
瀬を築き、彼等ははその設営として帰って
いった。
思えば寧明以来の沐浴で、鉢の垢をすっか
り洗い落とし、身も心もすがすがしく午睡を
楽しむことが出来たあの時の感懐は、今でも
忘れ得ぬ。

やがて、いつしか深い眠りに陥つた頃、
フトある丘の上に佇む自分は、遙か彼方の繁
みの中から、砲声と共に砲煙の立ちのぼるの
を見た。程経て又砲声だが、敵か味方かその
本態が判らん。若し敵の奇襲だつたら、と思
つた途端夢はさめた。
「なあんだ 夢だつたか」と一人はほほ笑む
その折、又しても砲声だ。之は夢ではない、

本物の砲声だ。

熟睡中はこの砲声を耳にして、それが夢を
誘い出したのだ。あたりの気配から、夜もか
なり更けているらしい。フト窓から外を見る
と、あまりにもひっそり閑として、何やら様
子が違う。ハテナ、と思ひ階段口から下の部
屋を窺けば誰もおらず、荷物も何一つ見えな
い。戸外に出て見れば、静寂の中に何かしら
ん鬼気身に迫る感じに、アタフタと本隊の設
営として一、二分歩いた処で、月光にきらめ
く銃剣の光を見た。兵士は一言も発せず、私
も無言で司令部のある方へ足を早めた。

司令部はかなり広い地域の、内地で見る田
舎の学校か役場の所在地に似て、周囲には数
本の樹木が高くそびえ、奥まった処に平家建
が二、三棟配置され、その左方の棟に参謀部
が置かれた。中央の本屋に突き当たる石畳の
道路の両側には、バラック建の数百に仕切つ
た部屋が設けられ、兵士達がすし詰りになつて
いたのに、それが一人もおらず、建物だけが
森閑として、見るからに淋しい。昼間騒々し
い程賑やかだつたこの辺りが、一瞬にしてこ
の淋しさは、何となく身に浸み渡るのを覚え
た私は、月光に銃剣を光らせて立つ一人の歩
硝に訪ねて、ほんの一刻前、全部の隊が国境
へ向って行軍した事を知った。道順を聞けば
この司令部から一直線に行けば本道に出ると
のこと、ここで初めて私の勘違ひを知り、水
浴から帰って寝る時、若し寝過ごしても部隊
の通る軍靴の音で目が醒めるだろうから、と

安心して熟睡してしまつた訳だつた。

さあこうしても居られまい、五味田連絡員は支那酒に酔つて前後不覚である。可愛想だが叩き起して、大きい荷物は何処へ残し、直ちに部隊の後を追うことになつた。

もの一時間足らず歩行するうち、遙か前方から砲車のキン音の途絶へ勝ち、或は遠く又近く聞えて来る。幸い月夜の道は左程苦勞もなく、二時間程で部隊に近付いた。それから砲車と共に曲りくねつた山又山の間道を、ゆるやかに歩むこと約二時間ばかりで国境に至り、あるY字形の道路から砲車と別れて左へ山道に入り、丸い山の頂上へと昇れば、相対する間近の山の上に、洋館風の建物が見える処に出た。此の建物が昨夜から砲撃の的となつていた仏印側の国境監視哨だつた。無血進駐の協約が破られ、流血の進駐となつた始まりは此処からである。



詩吟・和歌朗詠考(三)

編集部

琵琶歌 一月下の陣、春日山

九月十三夜陣中作 上杉謙信
霜は軍営に満ちて秋氣清し 数行の過雁月三更 越山併せ得たり能州の景 遠莫(さ

もあらばあれ) 家郷遠征を憶(おも)う。(作者は戦国時代越後の名将、天正六年没、齢四十九。)

「註釈」越山併得は越後中等の山々は既に占領してしまつた。遠莫はしかしそんなことはどうでもよ。

(大意) 霜は陣地に満ち満ちて秋の爽やかな気分が漲つてゐる。大空を飛んでゆく雁は列を作つて月は既に十二時を過ぎる頃か、我れはいま越後越中を征服して思い通りになつた。故郷の家来たちは自分が斯く遠く征伐に來ているのを氣遣うが、それはどうでもかまわぬ、まだまだ大いに進撃する。

琵琶歌 西郷隆盛

題岩崎谷洞

西郷隆盛

百戦功無し半歳の間 首邱(しゆきゅう)幸いて家山に返るを得たり 笑つて儂(われ)死に向う仙客の如し 尽日洞中棋響(ききょう)閑なり。

(作者は明治維新の功臣、西南の役に破れて明治十年九月没、齢五十一。前号参照)。死の直前この胸襟あり正に英雄とは西郷のことをいうのであろう。尚この詩は一説に杉聴雨の作ともいわれる。)

「註釈」首邱は孤が死ぬ時は元椋んでいた丘に向つて死ぬという、故郷を死にのぞんで忘れぬ。尽日(じつ)は一日を打つ。(大意) 心にもない戦をして半歳の間何の功もなく今日幸いに故郷に帰ることが出来た、

死にのぞんで終日仙人のように碁を打つてゐるのが我れながらおかしくなる。



「孤独の中に生き甲斐を」

馬場 鴨水

春は藤波を見る。紫雲のごとくして、西方に匂ふ。夏は郭公を聞く。語らふごとに死出の山路を契る。秋はひぐらしの聲、耳に満てり。うつせみの世をかなしむほど聞こゆ。冬は雪をあはれが。積り消ゆるさま、罪障にたとへつべし。

注①日野草庵の一節(二二二方丈記)

②作者鴨長明、晩年の閑寂な生活である。四季折々の変化を叙している。

③一貫する無常厭世の思想、自然の中に仏道を精進しながら詩歌管絃に心を慰めていた。琵琶は非凡の才ありと。

さて、私が職を退いて早くも十余年の歳月がすぎ去つた。来春は亡妻の七回忌を迎える。淋しさをしみじみと体験した私は、いま孤独の中に生き甲斐を感じねばならない。孤独の中のたのしみを見出す境があるであろうか。私は現在の生活態度を反省しながら、生活のリズムの中よるこびを感じたい。

日常生活にかゝつて

- 一、食事 —— 二食主義。
- 二、仏壇 —— 奉仕。
- 三、運動 —— 朝の散歩。
- 四、読書 —— 日本古典文学、唐詩。
- 五、書道 —— 晋唐の法帖、平安時代の古筆臨書と指導。
- 六、琵琶 —— 一水会支部、琵琶協会の月例会、演奏会。
- 七、鑑賞 —— レコード、テープ。

(1) 高野川辺りの散歩

堤防の下の川辺りに沿つて、川上から下へ小道が続いている。大雨後は激しい水勢に川の様相が一変する。

両堤の青々とした雑草の緑を目一ぱいに入れ、水草、水上に遊ぶ水鳥の群れ、小魚の泳ぐさまも、また目をたのしませてくれる。

比叡の頂きにかかるうす雲を眺めては、ふるさとを思い、亡き人々を偲び、思索に耽けるのが楽しみである。

(2) 琵琶協会の例会
二十名近い男女会員は、いずれも一城の主と言えよう。

琵琶の雰囲気にあふれる平井会長さん宅の美しい二階での会合は楽しい半日である。存分に個性ある演奏を聴く。短評もあつて、研修の最適場である。

また、会長夫妻のうるわしい人柄のもとに、賑やかな雑談を交えて、和気あいあいの親し

「会合は他では味わひ得な。ここには孤独感がな。

私はいま細く長く自分なりの歩みに人生に生き甲斐を求めている。十一月と言えば私の誕生日がやってくる。齢を忘れて楽しく余生を送りたいと念願。

変らず琵琶の研究を怠らないで励んで行きたい。そして先輩諸兄姉からよく学びとりたいと思ひます。

(写真) 清流高野川畔、出町柳で鴨川と合流 (五五、一〇、一)



名曲「荒城の月」で知られる

豊後竹田岡城を訪ねて

辻 旭城

「春高樓の花の宴 めぐる盃かげさして
ちよの松がえ わけいでし
昔のひかり さますつこ」

「秋陣営の霜の色 鳴きゆく雁の数見せて
植うるつるぎに てりそいし
昔のひかり さますつこ」

あれからもう十年あまりにもなるかしら、日豊線の大分で豊肥線に交替して、目的地豊後竹田駅で下車した。降りたのは夕方、十月に入つた九州路も市の都心を離れた周辺では、虫の音に秋の深まりを覚えた。

その夜は岩城屋で一泊し、明けると雨が降っている。いつ止むとも知れない絹糸のような秋の雨。宿で蛇の目傘を借りて、暮盤の目のようにつけられて道、岡城跡に足を向けた。この城跡は豊後竹田駅から東へ約二キロ、大野川の支流白竜川と稲葉川に囲まれた要害の丘である。

大手門跡から見上げる武者返し石垣は、霧雨の中で如何にも堂々と見えた。昔の栄華を知つてか知らずか、石垣は分厚い苔に覆われてただ雨に濡れている。何も語らうとはし

ない石垣だが、幾百年にわたる風や雨に晒された石の表情には、言葉につくせない歴史の重みがかがえる。

時々、ズズッと崩れかかる石段を、滑らないようにと足もとに気を配りながら、ズボンにからみつく雨に濡れた秋草に注意しながらゆっくと登山した。

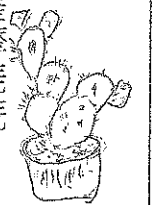
文治三年(一一八五)緒方三郎惟栄が築城し、次後志賀氏十七代二六〇年、続いて中川氏十三代一七〇年の居城であった。岡城跡も跡にも天守閣にも、角櫓跡にもどこにもない。広い城郭に松や杉や楠の老木や、そして城のほぼ全域に点在する桜の古木などが、それぞれ風情を見せて立っているだけで、この古城の寂寥たるたつまいが、滝藤太郎に名曲「荒城の月」のあの美しい旋律を生み出させたのだろうか。

竹田市街地の東端にある岡城は、建武年中に大友一族の志賀貞朝が修葺拡大して岡城と命名した。文禄三年中川秀成が播磨の三木から入城して、明治維新までつづいたと文献にある。城跡を下ってトンネルを通ると、琵琶歌の日露戦争の勇者広瀬中佐を祀る「広瀬神社」があった。

このほか殿町にある武家屋敷、その中間の隠れキリシタン洞窟札拜堂、幕末の南画家田能村竹田の住居跡、滝藤太郎の旧宅。文化の香り高い竹田の街を歩いてゆくと、思わぬ所で歴史の跡を見るものである。

東西合同薩摩琵琶

一泊弾交会の記



九月二十八・九両日に亘って浜松弁天島の浜名荘に於て、四明会、正絃会、鶴絃会共催の首記が催された。参加者は二十八日国鉄の弁天島駅に集合。鶴絃会の御厚意による数台の車に分乗、浜名荘に着すれば、既に鶴絃会の方々により会場の準備は完了し、久しぶりに会った参加者はそれぞれ久闊を叙し合い、肩を叩き合い和やかな風景がそこに見受けられた。

昼食後別記の通り弾交、(別項参照)、午後六時に予定どおり終了した、この一泊会は四明会が約二十年間催していたことを聞き、十数年前に正絃会から東西合同にて催すことの提案があり、以来関東関西で数回催したが、浜松が丁度その中間に当るので鶴絃会で世話を頂く回数が多くなり、特に本年は錦心流の諸師も数名参加され、賑やかに且つ和気藹々裡に終始し有意義に終った。これは偏見に鶴絃会の方々の献身的なお世話によるものであった。

明ければ二十九日も昨日に劣らぬ快晴、朝食後雑談芸談に花を咲かせ午前九時に散会。弁天島駅まで鶴絃会の方数師の車に分乗、来年の一泊会にての再会を約して帰りの列車に乗り込んだ。

なお、この浜名荘は弁天島の青松に囲まれた閑静なところで、風格もあり、弾奏には最適な会場であることを申し添えておきます。(XYZ記)

仲川秀邦女史入洛歓迎会



薩摩琵琶の名手東京の仲川秀邦女史が静岡県浜名湖畔に於ける一泊弾交会に出席の帰途九月二十九日来京されたので京都琵琶協会の己知、未知の会員たちが平井春嶺氏宅に集まり関東琵琶界の状勢や一般芸談に楽しい半日を送り、仲川女史の「巴の前」の歯切れのよい熱演や京都側二、三会員演奏のあと金閣寺に近い料亭「錦鶴」に女史を招待して京料理で乾盃、なごやかな雰囲気裡に八時散会した。因みに女史は薩摩琵琶の外筑前琵琶(号旭朋)もよくされることは衆知の通りである。

(京都側出席者)馬場鴨水、梅原旭濤、矢吹旭美津、山岡旭清、安住旭康、牧雨水、桜井旭富、平井春嶺、植村寛水。

阿部秋子会長
琵琶演奏会感想記



十月五日(日)、名古屋市大須、中小企業福祉会館での記念演奏会は開演十一時。絶好の秋晴れに恵まれ、京都琵琶協会の五名は十一時すぎ会場に到着す。

五階控室に少憩、六階ホールの会場に赴く。舞台は引幕、正面横書きの女手で美事に大書され、意義深い五周年を想わしめ、両側に花輪、金屏風を背景に華やかである。

大ホールはすでに百四、五十名余りの聴衆が美しいプログラムを手に演奏者を心より応援す。次々と力一ぱいの美声を快く拝聴す。松浦秋翠さんの絃への活躍振りにはまた素晴らしい美しさ、只々敬服する。すべてどなたも奮闘振り。

賛助出演は名古屋、金沢、福井、京都と夫々に個性と技を存分発揮せられ、琵琶の真髄を示範された。

会長阿部先生の舞台姿、妙えなる響き、繊細な節廻わりに、引きつけられ、満堂皆々曲中の人となった。

東京本部会長前田先生の「琵琶行」を拝聴す。白楽天が友人を潯陽江で送った時、琵琶を弾く女に会って琵琶の音楽の美に感じ、そ

の女の身の上に同情し、それにつれて自分の満身の力強い気持。先生は力強く演奏され、琵琶の魅力と愛着が迫って来るのを覚えた。終って記念撮影、控室で一同打揃い、本日の五周年を祝う乾盃により喜びを心に抱き、帰途についた。(鴨水記)

大阪堺開口神社秋季大祭に琵琶献奏

九月七日(日)昼一時、大阪琵琶同好会協賛。湖水渡り、松本旭勇、堅田落、矢野旭信、荒城の月、別所、鈴木、青柳、姫百合の塔、米原、島津、大楠公、作花旭友、秋風故郷山、辻旭城、壺坂寺、石橋旭嶺、川中島、田中敷水、新撰組、天津八千代、二〇三高地、中島旭穂。

敬老慰安会に琵琶演奏

九月十四日(日)昼一時京都醍醐小学校講堂、大阪琵琶同好会協賛。菊水の旗、島津、米原、赤垣源蔵、矢野旭信、粟津の露、石橋旭嶺、安宅の関、作花旭友、黒田武士、辻旭城、本能寺、松本旭勇、巖流島、田中敷水、若き敦盛、天津八千代、衣川、中島旭穂。外に奇術、浪曲、日舞など数番。

故谷暉水師追悼琵琶演奏会

九月二十八日(日)昼二時東京上野本牧亭、暉水一門会、一水会城東支部共催、一水会本部後援。

京都琵琶協会九月例会

九月十五日(日)休一時本部平井会長宅。平井春嶺、水内健水、牧雨水、安住旭康、山岡旭清、矢吹旭美津、梅原旭濤、楊嶽水、林旭萌、馬場鴨水、植村寛水の諸氏出席、教氏研修演奏のあと十一月二十四日協会演奏会の各自演奏曲目の選定や出演順の抽籤、十月五日協会後援の名古屋秋声会に出演者の協議その他の打合せをして夕食を共にし七時散会した。(十月十日の例会記事は次号詳報。)

日本芸術琵琶普及会の敬老集会

九月十五日(日)休一時東京文京区大塚の貸席京屋。門琵琶ほか弾法、錦幽、乃木将軍、坂入晴峰、湖水乗切、内田隆章、白虎隊、杉山夫人、小督、鈴木好水、小栗栖、丸田旭琴、月ざくら、山崎錦幽、秋海棠、青木早水、千手の前、高田栄水、忠度、金森旭輝、白虎隊、長谷川錦舟、安宅、若宮旭登、竜の口、鈴木流泉、異国の丘、杉山旗水。以上研修の後敬老の祝宴を開き八時散会した。

藤巻旭鴻演奏会

九月二十一日(日)十一時東京千代田区大手町農協ホール、筑前琵琶旭鴻会主催、日本琵琶

楽協会に後援(有料)。旭鴻会員のほか各流派の名手たちが特別出演して盛況を呈した。秋風故郷山一、大西旭千恵、横山旭季、絃旭川、旭章、笛一、衣川一、藤巻旭星、清田旭苗、絃旭鴻、華道華の恵み、古川旭冷、絃旭陽、旭映、旭神、生花三人、天の羽衣、松元旭川、大野旭翠、大津旭英、絃旭彰、旭史、旭憲、小絃旭章、笛一、立方藤間、茶道松風の曲、吉島旭紅、絃旭陽、旭英、旭呂、旭容、点前上原社中、小督、初谷旭憲、笛一、羅生門、黒田旭暎、古川旭神、絃旭鴻、旭章、栗津の露、石田旭呂、柴田旭容、絃旭彰、旭史、大物の浦、林田旭史、内田旭章、吉野落、清川嵐舟、鴨川の露、山下旭瑞、綱館、藤巻旭鴻、藤巻旭彰、藤巻旭鵬、絃旭堂、旭粧、小絃旭桂、立方一、対王丸、大阪木匠旭山、絃旭鴻、旭彰、旭章、笛一、立方二、時雨曾我、藤波桜華、大楠公一、藤巻旭鴻、唐人お吉、明石富樫旭桂、絃旭鴻、旭陽、旭川、笛一、立方一、新琵琶楽、汐風乙女、荒城の月、奏曲、二、琴、笛、大絃各一、小絃二、正絃旭堂外十四人、立方一、「汐風乙女」は民謡調の軽い歌謡、「荒城の月、奏曲」は滝廉太郎の名曲を主題としこれに六ツの変奏をつけたもの、▼噫無情、神戸柴田旭堂、蒼れの水馬、会主藤巻旭鴻。

邦楽びわまつり木原綾子演奏会

九月二十三日(秋分の日)十一時東京日本橋茅場町東京証券ホール、後援日本琵琶楽

協会ほか。木原女史第二回の催して琵琶の外詩吟、舞踊、琵琶舞踊、書道吟、謡曲、箏二重奏など多彩な内容に充ち、琵琶は東西各流派の名手数氏をゲストに迎え盛大に開催。青葉の笛、斎藤満保、城山一、斎藤喜一、八甲田山一、比、絃綾子、合奏小督、平田由美、平田ヨシ子、菅公一、成田、桜花譜、油料、敦盛、平田、源実朝公、鷺見、大楠公一、名古屋上井旭浄、巖流島、酒田佐藤智水、品子抄、朗詠桜井、琵琶綾子、新撰組、横浜采崎純水、横須賀小関香水、絃綾子、琵琶舞踊、静幻想曲、鷺見、油料、木原、平田、立方松賀社中、粟津ヶ原、三栖旭銚、城山、須田誠舟、四條、暇、神戸柴田旭堂、西郷隆盛、石坂鶴朋、対王丸、藤巻旭鴻、敦盛、藤沢積本山水、小栗栖、押田旭初、亀山上皇、遠藤鶴東、琵琶舞踊、白虎隊、吟若水会中尾、石橋、福光、木村、琵琶吉水、舞小松、良寛、津谷桜佳、伊達政宗、水藤五郎、うづは猿、会主木原綾子、小絃、藤巻旭彰。外に木原錦翠女史の吟による詩舞宝船、同桜花譜、同本能寺、同名槍日本号を始めとする詩舞五題、詩吟十六題。また磯牧山の尺八、国重歌純の箏の伴奏が随所に加わり一段の光彩を放った。

▼坂崎出羽守、伴旭友、滝善三郎、正信、丸尾旭宝、絃旭昇、壺坂寺、近藤旭水、絃旭暢、湖水渡、田中旭穂、新撰組、天津旭八千代、姫百合の塔、能勢旭陽、吉野山懐古、川崎旭海、絃旭昇、小絃旭好、安宅の関、塩谷旭洲、王昭君、笠旭洋、絃旭保、小絃旭桂、間重次郎の妻、岡崎旭彦、綱館、坂井旭蘭、秋元旭晨、竹本旭将、絃旭桂、旭山、旭楓、小絃旭好、衣川、中島旭穂、挨拶、松岡旭岡、柳の精、若宮旭登、若き敦盛、西川旭操、小栗栖、松尾旭紅、大楠公一、宮垣旭璋、天の羽衣、富樫旭桂、木庭旭山、高千穂旭楓、絃旭暢、旭操、旭八千代、小絃旭好、那須与市、中村旭園、院の庄、伊藤旭暢、絃旭昇、旭桂、旭操、旭八千代、小絃旭好、二〇三高地、田中旭昇、小絃浜本旭好、秋風故郷山、柴田旭堂、絃好保、黒田節、八木隆、絃大合奏。

東西合同薩摩琵琶一泊弾交会

九月二十八日、九両日静岡県浜名湖畔弁天島浜名荘、四明会、正絃会、鶴絃会共催。開会挨拶、鶴絃会小野鶴彦、松の寿、鶴絃会員一同、母の教、川口暁江、迷語もどき、石川輝晃、宗良親王、竹原輝祥、本能寺、前田綱水、桶狭間、松永琴城、楠木正成、吉見輝水、乃木将軍、大富士岳、足柄山、中村鶴翔、虞美人草、青島鶴珠、小敦盛、一染谷鶴泉、三方ヶ原、野市峰洲、吉野落、上松浦鶴雲、華の香、伊藤鶴麗、お礼と挨拶、四明会平井春嶺、小松の操、(一)山本嶺舟、蒙古来、三上

筑前琵琶大演奏会

九月二十八日(日)十一時神戸生田区相生町神戸市文化ホール、主催旭岡会。松岡旭岡先生米寿記念祝賀演奏会、神戸旭会(会長田中旭昇氏)の主宰。堅田落、櫛田旭波、福西旭紅

九月二十八日(日)昼東京中野区大和田地区センターホール。古典弾法、伊藤茂良、山崎錦幽、城山一、茂良、薄陽江、舟舟慶、客員(佐渡)山本隆水、乃木将軍、湖水乗切、金尾洲丈、敦盛、屋島の誓、中村洲心、彰義隊、清水源城、乃木将軍、西郷隆盛、長谷川錦舟、風林火山、鈴木鶴謡、勿来の関、錦幽。以上研修演奏六時散会。(正派演奏家連関西旅行のため出席者少なく淋しかった。)

日本琵琶普協会九月例会

十月五日(日)午前十一時名古屋市中区大須中小企業福祉会館六階ホール、主催名古屋秋声会、(会長阿部秋子女史)、後援琵琶芸術協会、京都琵琶協会、中部琵琶連盟。桜狩、五人、紅葉狩、五人、金剛石、山中、絃秋翠、七郷落、水野、絃秋翠、五月雨、上山、絃秋翠、忠度、若森、絃秋風、月下の陣、田端、絃秋翠、河内の宿、石森、菅公、小沢、広瀬、中近、近藤紅、近藤紅、菅公、春日野、白井、重衡、鬼頭、湖水、椎尾、山本、川中、島、兵頭、絃秋子、湖水、長谷川、秋風、八甲田山の露、松浦秋翠、須磨の浦風、全主阿部秋子、五条橋、牧秋静、(以下賛助出演)西郷隆盛、名古屋丹野鏡水、河川島、金沢村田智水、茨木、福井岸本港水、西川磯水、舟弁慶、神戸中敷水、白虎隊、京都馬場鴨水、本能寺、京都平井春嶺、栗津の露、京都梅

各流琵琶演奏会

十月五日(日)午前十一時名古屋市中区大須中小企業福祉会館六階ホール、主催名古屋秋声会、(会長阿部秋子女史)、後援琵琶芸術協会、京都琵琶協会、中部琵琶連盟。桜狩、五人、紅葉狩、五人、金剛石、山中、絃秋翠、七郷落、水野、絃秋翠、五月雨、上山、絃秋翠、忠度、若森、絃秋風、月下の陣、田端、絃秋翠、河内の宿、石森、菅公、小沢、広瀬、中近、近藤紅、近藤紅、菅公、春日野、白井、重衡、鬼頭、湖水、椎尾、山本、川中、島、兵頭、絃秋子、湖水、長谷川、秋風、八甲田山の露、松浦秋翠、須磨の浦風、全主阿部秋子、五条橋、牧秋静、(以下賛助出演)西郷隆盛、名古屋丹野鏡水、河川島、金沢村田智水、茨木、福井岸本港水、西川磯水、舟弁慶、神戸中敷水、白虎隊、京都馬場鴨水、本能寺、京都平井春嶺、栗津の露、京都梅

錦心流琵琶演奏会

十月五日(日)正午大阪市森の宮市立労働会館、主催中山風水会、後援一水会大阪支部。菅公、藤浪、津白虎隊、武田、霧の川、中島、藤本、城山、田実線水、雪晴、岡本隆水、本能寺、織田、羅生門、野間政水、木村重成、中山、湖水、湖水、養老、絃鳳水、合奏川中島、田実、岡本、織田、養老、中山、(以下来賓出演)村上喜剣、大阪中野水、井伊大老、同小西雨、西郷隆盛、名古屋三輪純水、常盤御前、徳島内田欽水、小栗栖、名古屋水谷浩水、戸隠山、大阪木村蓮水、石童丸、同小川吟水、敦盛、東京宮原理水、天目山、会主中山風水。

筑前琵琶協会全国大会

十月十二日(日)昼夜名古屋東区東新町中部電力ホールで開催(前日の十一日は総会と懇親会)。午前九時半第一部開演、豊饗会の少女四人による「キューピーさん」に続き小督外二十一を総括挨拶、祝辞、山崎旭華師叙勲記念品贈呈、午後二時第二部「茶絃録」外十九曲の独奏合奏で夕六時半全演奏終了。出演者延べ約百人の外琴、笛、点前、立方の協賛で盛会裡に目度く本年の行事を終った。

琵琶と詩吟演奏会

十月十二日(日)昼仙台市日立方ファミリーセンターホール、主催一水会仙台支部、後援市教育委員会ほか。小督、相原礎水、白虎隊、小形錦洲、本能寺、加藤雷水、安達ヶ原、熊谷

第十七回琵琶楽コンクール

十月十二日(日)昼東京銀座ガスホール、主催日本琵琶楽協会。三十一名出席、採点審査中、過去第一位の石田脩水、平山万佐子両氏の模範演奏があった。

筑前琵琶協会全国大会

十月十八・十九日(日)昼夜福岡市少年文化会館(有料)。第一日全国会員約六十人による合奏五絃を序奏に第一部二十曲、第二部小栗栖外十九曲。第二日一部五絃弾奏以下二十一曲、第二部安宅の関以下二十曲。茶道、華道、和洋楽器、琵琶舞踊なども織込み総出演者は全国会員約百五十人で同日とも満員の盛況を呈した。翌二十日は総会に続き懇親会が開かれ本年度一大行事は滞りなく終了した。

筑前琵琶第十六回演奏会

十月十九日(日)昼博多駅前大博多ビル十二階ホール、主催筑前琵琶保存会(会長嶺畑蝶女史)、後援県、市教育委員会ほか(有料)。親鸞様一六才八才の女児二人、養老の滝、八才十才三児、新曲寿猿、十才十三才三人、博多の盆母里太兵衛、十一才十三才三人、博多三番叟、磯村、青山旭子、壇の浦、梶野、立花実山、十一人、琴立方入、麦と兵隊、十人、ああ惨たりルン島、梶野、絃旭子、大徳